

# 平成30年度学校経営計画

平成29年度～平成31年度

|    |    |     |              |      |      |     |    |
|----|----|-----|--------------|------|------|-----|----|
| 校番 | 37 | 学校名 | 広島県立庄原格致高等学校 | 校長氏名 | 今岡 護 | 全日制 | 本校 |
|----|----|-----|--------------|------|------|-----|----|

## 1 ミッション (地域社会における本校の使命)

「格物致知を旨として、広い英知を磨き、豊かな情操を育む。」

県北地域の期待に応え、国際社会の発展、郷土の発展に寄与するため、深い探究心・思考力・判断力を持ち、自らの夢や目標に向かって挑戦する生徒を育成する。

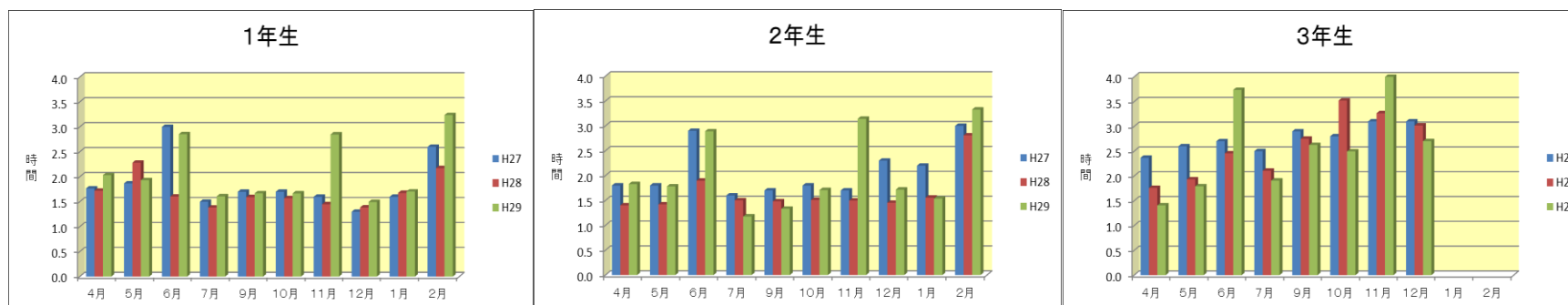
## 2 ビジョン (使命の追求を通じて実現しようとする本校の将来像)

### 目指す生徒像

- ① 人格の完成を目指し、豊かな心と生き抜く力を身につけた生徒
- ② 自主的精神に満ち、自己実現を図るため自己管理をおこない、向上心を持って信念を貫く生徒
- ③ 自他を尊重し、人間関係を大切にする、徳性の高い生徒
- ④ 国際社会・地域社会に貢献しようとする生徒

## 3 環境分析

### (1) 家庭学習時間 (過去3年間推移)



### 【総論】

- ・ 家庭学習時間の増える要因として次の2点が挙げられる。
  - ① 定期試験，入試など学習への動機が与えられている場合。
  - ② 週末課題や小テストなどについて，教員側から具体的，継続的な指導が行われている場合。
- ・ 学習への動機は，外的な要因が強く，自律的なものにはなっていない。
- ・ 生徒実態の変化に対し，指導方法が対応し切れていない。

【1学年】

- ・ 週末課題等，家庭でやるべきことは明確になっており，継続的な指導により，一定の学習時間を確保させることができる。

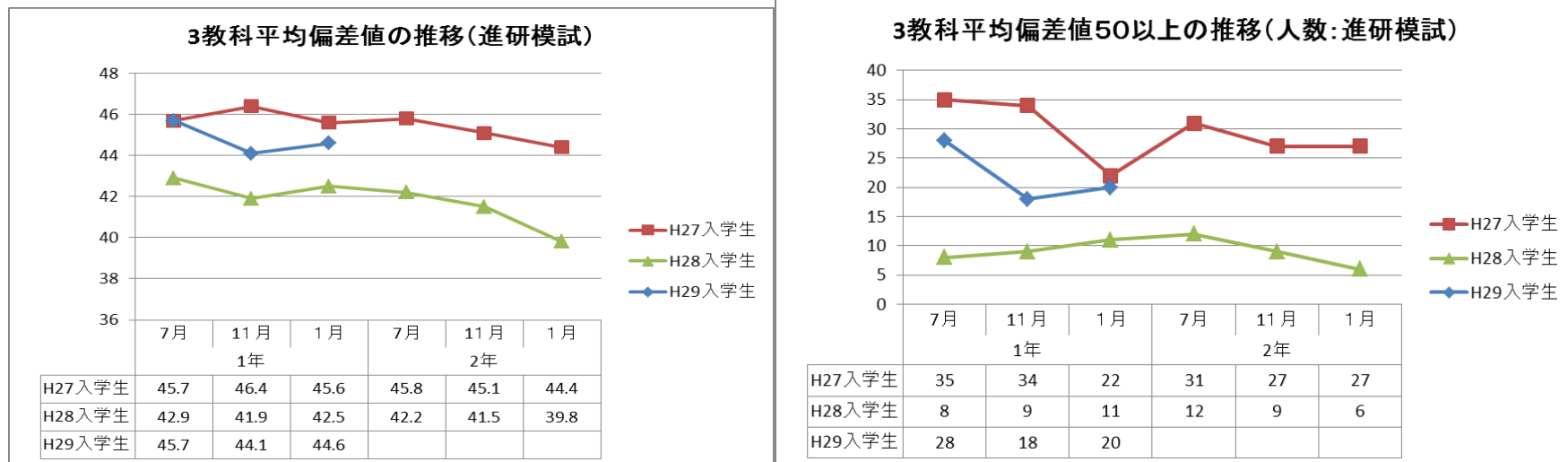
【2学年】

- ・ 進路目標の明確化による学習の動機付けとともに，学習方法を確立させ，行動に移させる指導が不可欠である。
- ・ 時間という量的な指導から，学習内容における質的な指導に移行する必要がある。

【3学年】

- ・ 進路目標が多岐化しており，家庭学習から見える課題が成績階層別に異なっている。
- ・ 受験を目前に控え，やるべきことが絞られた第3ターム以降は，家庭学習時間を一定確保することが出来ている。

(2) 模試成績の進展状況



### 【総論】

- ・ 成績向上の第一歩は、自己の”強み”と”弱み”の教科科目を認識させることである。好きな科目や得意な科目に磨きをかけ、自信を付けさせるとともに、その過程で培ったノウハウを不得意な科目に生かすことで”弱み”の補強・克服を行うことが大切である。

### 【1学年】

- ・ 以前に比べ、授業態度に課題を抱え、家庭学習の習慣が未定着な生徒が増えてきた。こうした生徒に対して、授業の受け方や予習・復習などの学習の仕方を重ねて指導し、生徒同士が競争心や向上心をもって切磋琢磨するクラスや学年をつくることが課題である。

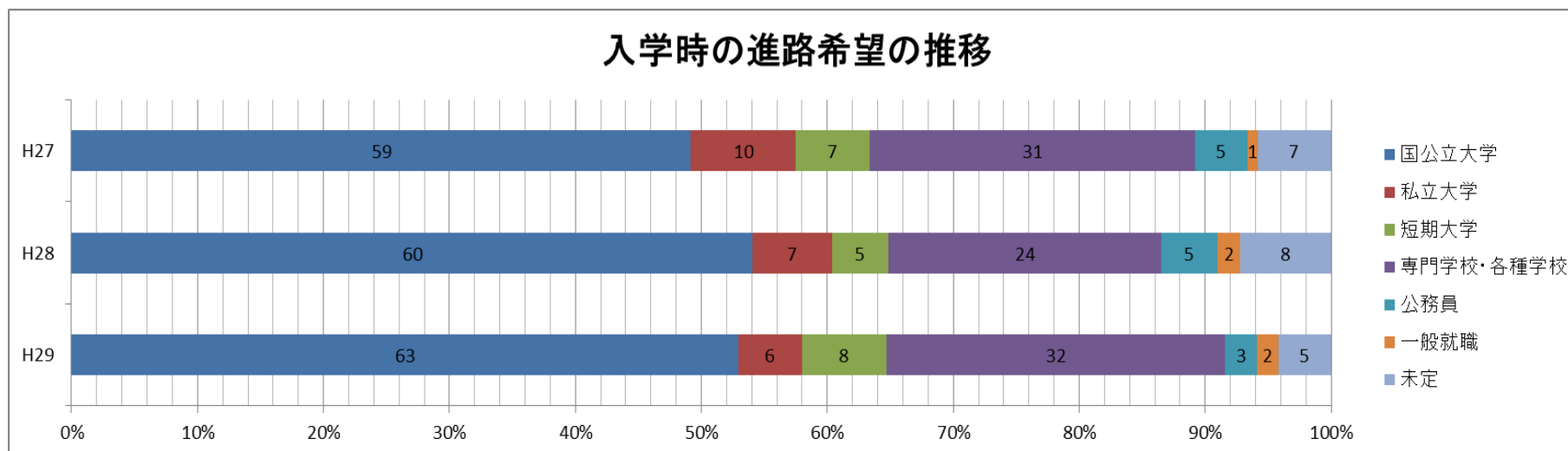
### 【2学年】

- ・ 2年生になると部活動や生徒会活動の中心となり、やるべきことが増えてくる。そのため授業を中心とした学習体制の構築と、落ち着いて授業に取り組むための環境作りが必要である。また進路に対するモチベーションを高めるため、成績層ごとに、定期的な学習意欲啓発セミナーを行うなどの方策が考えられる。

### 【3学年】

- ・ 各自が進路希望を実現するためには、英数国を中心に早くから模擬試験や大学入試問題の演習などに、目的意識を持って取り組んでいかなければならない。さらに、理科・地歴・公民に、進路決定のための学習の範囲を徐々に広げていくなど、計画的な授業や家庭学習や補習体制の確立が必要である。

### (3) 入学する生徒の意識の変化



- ・ 進路希望先として、私立大学、短期大学はほぼ一定であるが、国公立大学は年々増加している。専門学校も一定の割合で存在しているが、これは資格指向が強まり、それを直接取得できる専門学校への進学を考えている傾向の表れと思われる。その資格も看護系など特定のものに偏る傾向が見られる。幅広い視野で進路選択できるように、1、2年のうちに様々な職業や職種、学問分野について「調べる」、「体験する」取組を「総合的な学習の時間」に位置づけることが必要で、生徒の学問や進学への意欲の向上を図る取組も大切である。同時に3年において最後まであきらめずに「チャレンジ」するよう、心の鍛錬も必要である。

(4) 学力推移と国公立大学合格者数（延べ数）

| 卒業年度     | 進研模試3教科平均偏差値50以上（人数） |       |       | 国公立大学合格者数 |
|----------|----------------------|-------|-------|-----------|
|          | 1年次7月                | 2年次7月 | 3年次7月 |           |
| H25年度卒業生 | 11                   | 19    | 9     | 15        |
| H26年度卒業生 | 19                   | 26    | 19    | 23        |
| H27年度卒業生 | 28                   | 42    | 22    | 28        |
| H28年度卒業生 | 21                   | 21    | 7     | 13        |
| H29年度卒業生 | 35                   | 31    | 18    | 17        |
| H30年度3年生 | 8                    | 12    |       |           |

- ・ 平成29年度(平成30年度入試)においては、国公立大学の推薦入試で1名、前期試験で14名、中期・後期試験で2名の計17名が合格した。合格した生徒に共通しているのは、自学自習の習慣を身に付けていたことである。高い志を背景とするこの習慣の持続により、塾に依存することなく、学校での授業と補習だけで志望校に合格できる。学習習慣の確立は、その後の成績の向上に大きく左右する。
- ・ 面接指導においては、第一段階として志望理由書を何度も書き直させ、志望動機を明確にさせたことで、その後の指導をスムーズに行うことができた。今後も、面接や小論文試験が増加することが予想される。試験のあるなしに関わらず、誰もが身に付けるべき基礎力としての表現力やコミュニケーション力をさらに鍛える必要がある。また、大学入試制度の抜本的見直しが進む中、選抜方法も多様化しており、プレゼンテーションや集団討議、教科に関する口頭試問などを、適切に指導する組織力も求められている。

(5) 部活動参加率

|     | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1年生 | 98     | 95     | 98     | 97     | 104    |
| 2年生 | 99     | 99     | 96     | 93     | 93     |

|     |    |    |    |    |    |
|-----|----|----|----|----|----|
| 3年生 | 91 | 99 | 93 | 95 | 89 |
|-----|----|----|----|----|----|

- ・ 4月の入部登録をさせる時に、1・2年生の未加入者にあらかじめ加入の働き掛けをしている。
- ・ 参加率について、同好会への参加を含めると1年生は119%、2年生は95%、3年生は98%となる。

(6) 実用英語技能検定準2級以上取得者数

|     | 平成25年度入学生 | 平成26年度入学生 | 平成27年度入学生 | 平成28年度入学生 | 平成29年度入学生 |
|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1年次 | 44        | 17        | 41        | 22        | 29        |
| 2年次 | 63        | 35        | 44        | 31        |           |
| 3年次 | 66        | 38        | 51        |           |           |

- ・ 1年生については、コミュニケーション英語Ⅰの授業において英語検定の練習問題を取り入れる、英語表現Ⅰの授業において英語検定2次試験の演習を行うといった対策を実施した。
- ・ 例年、1年次から2年次にかけて約20名が新たに英検準2級以上を取得するが、今年度は受験者数そのものが伸び悩んだ。2年生の受験を促進することが求められる。

(7) 生徒指導上における指導件数

|     | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1年生 | 4      | 7      | 5      | 2      | 9      |
| 2年生 | 10     | 4      | 2      | 3      | 2      |
| 3年生 | 1      | 3      | 0      | 0      | 1      |

- ・ 指導の内容は、携帯電話の持ち込みが中心になっている。
- ・ 携帯電話に係る違反者には生徒指導部が指導を行うとともに、必ず全校集会や学年集会を実施し、全体へも指導を行った。

(8) オープンスクール参加者数

|                  | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 中学生・保護者等<br>参加者数 | 176名   | 209名   | 222名   | 230名   | 235名   |
|                  |        |        |        | 96名    | 43名    |

- ・ オープンスクールのテーマを、2年連続で「学びの世界」(パフォーマンス課題)と設定し、中学生の興味・関心を喚起する模擬授業、クラブ体験を行った。

- ・ 近隣の高等学校と日程調整を行い、他校との同日開催を避けて本校の実施日を設定した。
- ・ 7月18日（土）に三次サングリーンで「格致DAY」を行い、吹奏楽部・邦楽部の演奏、茶道部・写真部の活動、ダンスグループISMのパフォーマンス等を行った。また、オープンスクールのPR（パンフレット配布等）を行った。
- ・ 中学校での高等学校説明会や本校への高校訪問において、オープンスクールのPRを行った。

(9)「学びの変革」を具体化する取組

|         |              | 平成27年度  | 平成28年度  | 平成29年度   |
|---------|--------------|---|---|--|
| 授業づくり   | ◎国研指定事業      | ◎パフォーマンス課題による論理的思考力育成（2年目）                                      | ◎同左（再指定，初年度）  | ◎同左（再指定，最終年度）<br>本校独自の評価システム試行   |
|         | ◎学びの変革       | ◎中核教員による実践例作成   | ◎実践推進リーダーのもと，全教員が年間評価計画作成   | ◎実践推進リーダーのもと，全教員が年間評価計画作成  |
| 地域への関わり | ◎格致「力」検定     | ◎第1回格致「力」検定<br>・市役所6課からの課題提起<br>・社会科教諭による講演<br>・グループ討議による解決案の提示 | ◎第2回格致「力」検定<br>テーマ：クリティカルシンキング<br>・道の駅「たかの」コンシェルジュ 檀上様の基調講演<br>・市役所6課からの課題提起<br>・県立広島大学堀田教授による講演<br>・グループ討議による解決案の提示      | ◎第3回格致「力」検定<br>テーマ：〇〇〇があれば，将来私は庄原に住みたい<br>・市役所6課からの課題提起<br>・シンポジウム<br>テーマ：10年度の庄原市を想像しよう<br>・グループ討議による解決案の提示 |
|         | ◎中山間地域わくわく事業 | ◎よいところ祭参加<br>・実行委員会で企画<br>・ブース担当                                | ◎よいところ祭参加<br>・実行委員会で企画<br>・ブース担当<br>◎庄原青年会議所主催「高校生企画カコンテスト」提案<br>・「スイーツマラソン」<br>・庄原市市長賞<br>◎「庄原」活性化プランアンケート<br>・旧庄原市内全戸対象 | ◎よいところ祭参加<br>・実行委員会で企画<br>・ブース担当<br>◎地域創造サミットへの代表参加<br>・三重県南伊勢市  |

|  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|
|  |  |  | ◎「スイーツピクニック」の実施<br>・庄原青年会議所の協賛<br>・約1000名の参加 |  |
|--|--|--|--|--|

(10) 働き方改革

働き方改革の視点を持った取組

|           | 平成28年度以前                           | 平成29年度   |
|-----------|------------------------------------|--|
| 勤務時間に係る取組 | ○衛生委員会による勤務時間の縮減, 定時退庁(毎週水曜日)の呼びかけ | ○ノークラブデー(開校日の毎週火曜日, 長期休業中は平日1日。加えて週休日も1日休むことが望ましい。)・定時退校日(毎週火曜日)の設定<br>○夏季休業日の設定 |
| その他       |                                    | ○教科指導の見直しに係る教科会の実施。それをもとにした職員研修の実施   |

4 目標の設定

| 学校経営目標  |                      |                  |       |       |       |      |       |     |
|---|----------------------|------------------|-------|-------|-------|------|-------|-----|
| 達成目標  | 評価指標                 | 実績値              |       | 目標値   |       | 担当部等 |       |     |
|   |                      | H29年度            | H30年度 | H31年度 | H32年度 |      |       |     |
| <b>1 自主的精神に満ち、国際社会に通用し、自己実現を図るため自己管理をおこない、向上心を持った生徒を育成する。</b> |                      |                  |       |       |       |      |       |     |
| 広島版「学びの<br>変革」アクション・プランに基づき、主体的に学ぶ生徒の育成を図る。                   | 国際社会に通用する能力を習得させる。   | 英語検定準2級以上取得者数(%) | 32    | 40    | 45    | 50   | 英語科   |     |
|   | 自己管理を図りながら学力の向上をめざす。 | 各学年の平均家庭学習時間     | 1年    | 1.7   | 2.0   | 2.0  | 2.0   | 教務部 |
|   |                      |                  | 2年    | 1.6   | 2.0   | 2.0  | 2.0   |     |
|   |                      |                  | 3年    | 3.0   | 3.0   | 3.5  | 3.5   |     |
| 進路希望を   | 模擬試験年間の              | 1年               | -1.1  | 1.0   | 1.0   | 1.0  | 進路指導部 |     |

|   |   |    |      |      |      |      |     |
|---|---|----|------|------|------|------|-----|
| 現する。                                    | 3教科平均偏差値向上(点)   | 2年 | -2.4 | 1.0  | 1.0  | 1.0  |     |
|   | 模擬試験年間の3教科偏差値上昇人数(%)  | 1年 | 39.1 | 40   | 40   | 40   |     |
|   |   | 2年 | 28.4 | 40   | 40   | 40   |     |
|   | 国公立大学合格率(%)   |    | 14.4 | 10.0 | 15.0 | 20.0 |     |
|   | 進路希望調査(4月)とその達成率(%)   |    | 52.5 | 55.0 | 60.0 | 65.0 |     |
| 探求力・思考力・判断力を伸ばし、表現力・コミュニケーション能力の習得をめざす。 | パフォーマンス課題・評価等を活用した授業における授業評価アンケートの、論理的思考力・表現力に係る項目の平均値(4点満点中) |    | 3.2  | 3.2  | 3.2  | 3.2  | 教務部 |

| 2 人格の完成を目指し、豊かな心と生き抜く力を身につけた生徒を育成する。      |              |                                      |      |    |    |    |       |
|---|--------------|--------------------------------------|------|----|----|----|-------|
| 広島版「学びの変革」アクション・プランに基づき、主体的に行動する生徒の育成を図る。 | 部活動の活性化を図る。  | 運動部で、週4日以上活動をし、常時部員の9割以上参加している割合。(%) | 100  | 85 | 85 | 85 | 生徒指導部 |
|   |              | 文化部で、発表・参加の行事回数が10回以上。(%)            | 85.7 | 85 | 85 | 85 |       |
|   | 生徒会主催行事の活性化を | 自主活動回数                               | 16   | 15 | 15 | 15 |       |
|   |              | 生徒満足度調査アンケート                         | 97.5 | 90 | 90 | 90 |       |



|  |                               |                            |      |      |      |                 |                  |
|--|-------------------------------|----------------------------|------|------|------|-----------------|------------------|
|  | 図る。                           | 肯定的解答 (%)                  |      |      |      |                 |                  |
|  | 高校生活で生ずる悩みを成長の糧とできる支援体制を確立する。 | 特別支援委員会の定例開催<br>(開校月1回程度)  | 11   | 12   | 12   | 12              | 生徒指導部<br>特別支援委員会 |
|  |                               | 面接週間の設定(学期に一度)             | 2    | 2    | 2    | 2               |                  |
|  |                               | 教育相談体制に係る教職員アンケート肯定的回答 (%) | 87.5 | 85.0 | 85.0 | 85.0            |                  |
| <b>3 地域に信頼され、選ばれる学校づくりを進める。</b>                            |                               |                            |      |      |      |                 |                  |
| 地域行事に積極的に参加する。   | 地域行事参加回数                      | 22                         | 23   | 23   | 23   | 総務部             |                  |
| 生徒数を確保する。  | 選抜(Ⅱ)の志願倍率                    | 1.11                       | 1.12 | 1.12 | 1.12 |                 |                  |
|  | 市内中卒入学率 (%)<br>旧庄原市内中学        | 45.2                       | 45   | 45   | 45   |                 |                  |
| <b>4 上記の目標達成のために働き方改革を推進し、持続的発展可能な働き方(格致スタイル)を検討・確立する。</b> |                               |                            |      |      |      |                 |                  |
| 定時退校日に定時退校する。  | 定時退校日の30分以内退校教員数割合 (%)        | 新規                         | 80   | 90   | 95   | 衛生委員会<br>校務運営会議 |                  |
| 課題を発見し、対応する研修を実施する。  | アンケートの回数<br>職員研修の回数           | 新規                         | 2回ずつ | 2回ずつ | 2回ずつ |                 |                  |

## 5 行動計画

|   |         |        |      |
|---|---------|--------|------|
| 学校経営目標  |         |        |      |
| 達成目標  | 本年度行動計画 | 中期行動計画 | 担当部等 |
| 1 自主的精神に満ち、国際社会に通用し、自己実現を図るため自己管理をおこない、向上心を持った生徒を育成する。。 |         |        |      |

|                             |   |  |            |
|-----------------------------|---|--|------------|
| <p>国際社会に通用する能力を習得させる。</p>   | <p>(1) 1年生全員の英検受験に向けて、次の組織的な指導を行う。</p> <p>① 1年生オリエンテーション合宿で、英検受験への動機付けを行う。</p> <p>② 英語表現Ⅰの授業において、リスニングや面接の対策を実施する。</p> <p>③ コミュニケーション英語Ⅰの授業において、英検過去問の演習を行う。</p> <p>④ 英検対策補習を実施(放課後1時間)するとともに、英検取得やGTECのスコアアップに向けた全学年合同の補習を実施する。</p> <p>(2)総合的な学習の時間を活用し、次の事項を実現する。</p> <p>① 1年次は、英語表現Ⅰの授業などを通じて校内英語スピーチ大会を開催する。</p> <p>② 2年次は、プリペアード・スピーチ以外の形態の英語プレゼンテーションができるようにする。</p> | <p>(1)コミュニケーションスキルとしての英語力向上の評価指標として、卒業時までの英語検定準2級以上取得者数を全体の50パーセント以上にする。そのため、入学時から英語検定受験にむけての意欲を高める工夫をし、授業においても対策を行う。</p> <p>(2)スピーチ・レシテーション等のプレゼンテーションを中核とし、総合的な学習の時間などを活用し、グローバル社会に、「世界に羽ばたき、挑戦する」人材を育成する。</p> <p>(3)パフォーマンス課題、ルーブリックによるパフォーマンス評価を活用した主体的な学びを推進し、グローバル社会で求められる論理的思考力・判断力・表現力を育成する。</p> | <p>英語科</p> |
| <p>自己管理を図りながら学力の向上をめざす。</p> | <p>(1)毎月の家庭学習時間調査の分析をもとに、各学年における課題を明確にし、それに応じた具体的な対策を講じる。</p> <p>(2)学年会を中心に提出物の内容、提出期限に対する指導を徹底する。</p> <p>(3)1年は「学習習慣の確立」、2年は「成果を実感できる」、3年は「自分で計画を立てる」をテーマに、課題の内容を工夫する。</p>   | <p>(1)家庭学習時間の結果からわかる課題を明らかにすることを通して、各学年、各教科の取り組みを促し、生徒の家庭学習への意欲を向上させ、学習習慣を確立させる。</p> <p>(2)学習すべき内容を指導しなくても、自己の進路実現のために自律的に学習する生徒を育成する。</p>   | <p>教務部</p> |

|   |   |   |       |
|---|---|---|-------|
| 進路希望を実現する。                              | <p>(1) 模試のデータ分析と生徒面談による生徒の実態把握を行い、個々の生徒の取組むべき課題とその改善策を提示し、授業・補習・家庭学習を1つの線で結び、確かな学力を養成する。</p> <p>(2) 希望する進路について「調べる」、「体験する」、ことを通して主体的な進路選択を図り、信念を貫き「チャレンジする」ための支援を行う。</p>  | <p>(1) キャリア教育全体計画に基づき、生徒の進路に対するモチベーションを高めるとともに、3年間を見通した進路指導を充実させる。</p> <p>(2) 進路検討会議を1、2年生は年3回、3年生は年4回行い、回ごとの検討内容を明確にして、学年会を中心に学校全体で方向性を持った進路指導を実践する。</p>   | 進路指導部 |
| 探求力・思考力・判断力を伸ばし、表現力・コミュニケーション能力の習得をめざす。 | <p>(1) パフォーマンス課題の質的向上を図り、生徒の論理的思考を促し、生徒が主体的に考え、表現する授業づくりを行う。</p> <p>(2) 生徒のコンピテンシーの向上を図るための、「格致力評価表」を軸とした体系的な指導計画や評価方法などの教育課程の研究を進める。</p> <p>(3) 教員3人1組のグループでの授業作りにむけた研究・協議の体制を深化させる。</p> <p>(4) 難関大学入試問題にも対応できる論理的思考力・判断力・表現力を育成するため、難関大学入試問題を各教科で研究し、授業に活用する。</p> | <p>(1) 4年間取り組んだ国立教育政策研究所の研究指定による教育課程研究の成果を受け、授業づくりの取組を深化・発展させるとともに、公開研究授業における研究成果の発表を基本とする計画的・組織的な取組を実施し、研究主題を実現する。</p> <p>(2) 授業評価アンケートやルーブリックを活用したPDCAサイクルの機能化を図る。</p> <p>(3) 教科会を活性化させ、教科内で入試問題を研究し、難関大学入試問題に対応できる論理的思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善を図る。</p> | 教務部   |

|   |   |  |       |
|---|---|--|-------|
| <b>2 人格の完成を目指し、豊かな心と生き抜く力を身につけた生徒を育成する。</b> |   |  |       |
| 部活動の活性化を図る。                                 | <p>(1) 学期当初（年2回）、未加入者に対し加入の働きかけを行う。</p> <p>(2) 4月度に全校一斉に体験入部の部活動時間を設ける。</p> <p>(3) 毎月クラブデーを設定し、全教職員が部活指導を一斉に行う日とする。</p> | <p>(1) 新入生は、4月当初の100%入部を目標とする。</p> <p>(2) 部活動加入率90%以上を維持していく。</p> <p>(3) 各部の活躍状況を、広報紙「格物致知」等を、掲示板を利用し紹介していく。</p> | 生徒指導部 |
| 生徒会主催行事の活性化を図る。                             | <p>(1) 生徒会を中心に、年度当初綿密な行事計画を企画立案させ、進捗状況を適宜チェックする。</p> <p>(2) 厚生委員会を中心に、校内外の清掃活動を月1回実施</p>                                | 生徒会顧問を中心に、生徒会執行部を育成・指導し、生徒会執行部のリーダーシップにより、生徒たち自らが計画立案・実践できる生徒会を育成する。   | 生徒指導部 |

|                               |  |   |  |
|-------------------------------|--|---|--|
|                               | する。  |   |  |
| 高校生活で生ずる悩みを成長の糧とできる支援体制を確立する。 | <p>(1) 特別支援委員会を定例開催し、特別な支援を必要とする生徒のみならず気になる生徒について情報交換し、対応を話し合っって全校的な取組につなげる起点とする。</p> <p>(2) 学期に一度、1週間、放課後の行事・会議を設定せず、正副担任を中心に全員の面接を行い、生徒の把握を行う。</p> <p>(3) 職員研修を行い、より効果的な教育相談を行うことで、より生徒の悩みに寄り添い、より支援できる教職員集団を構築する。</p> | <p>(1) 結果的に、第一希望の進路を実現できる生徒の裾野を広げている。</p> <p>(2) 面接を起点とする個人指導と、連動する組織的な学級経営、学年経営が確立されている。</p> <p>(3) 教職員一人一人が傾聴のスキルを身に付け、コーチングによる関わりができています。</p> <p>(4) これまで支えることができなかった生徒を支えることができ、第一希望の進路を達成したうえで卒業にいたる生徒が増加している。</p> |  |

|                                 |  |  |     |
|---------------------------------|--|--|-----|
| <b>3 地域に信頼され、選ばれる学校づくりを進める。</b> |  |  |     |
| 地域行事に積極的に参加する。                  | <p>(1) P T A 広報紙・学校広報紙（「格物致知」）等を活用し、取組み状況を紹介していく。</p> <p>(2) H P を利用し、地域行事への参加状況等を紹介する。</p>  | <p>クラブ活動・奉仕活動等で庄原市・三次市の地域行事に参加し、その取組み状況を全教職員・全生徒が周知し、応援できる体制を作り上げていく。</p>  | 総務部 |
| 生徒数を確保する。                       | <p>(1) 地域の中学生にとって「行きたい高校」をめざし、入学志願者を増加させる。</p> <p>① 「高校説明会」等に用いる学校紹介DVDを、生徒の活動自体を伝えるものに工夫する。</p> <p>② 中学生の訪問に対し、模擬授業や先輩の体験談等内容の充実を図る。</p> <p>③ 三次市を会場に「格致DAY」を開催し、三次市内の中学生や保護者に向けアピールする。</p> <p>④ オープンスクールでは、夏と秋に2回開催し、中学生にとって本校を「身近な学校」として感じてもらえるような演出の工夫を行う。</p> | <p>中学生・保護者向けの学校説明会、中学生・保護者対象の学校訪問、格致DAY、年に2回開催のオープンスクールにおいてアピール戦略をしっかりと立てながら、組織的に動いていく。</p> <p>HPでは、動画や写真を活用し、アクセス数を増やす工夫をする。</p> <p>広報誌は定期的に作成し、行事だけではなく、出身中学別に卒業生の活躍ぶりや、進路先等を紹介する「特別号」を作成し、中学校を訪問する。</p> | 総務部 |

|  |  |  |                 |
|--|--|--|-----------------|
|  | (2) 早い時期から進路意識を持ってもらうよう、地元中学校からの高校訪問（体験入学）は全学年を受け入れる。  |  |                 |
| <b>4 上記の目標達成のために働き方改革を推進し、持続的発展可能な働き方（格致スタイル）を検討・確立する。</b> |  |  |                 |
| 定時退校日に定時退校する。  | (1) 校務日誌等を活用して事前に周知し、計画的に仕事ができるよう促す。<br>(2) 定時退庁日に生徒の残留等で残るケースについて、担任（または副担任、学年会）と教頭等、複数の対応を図る。<br>(3) 火曜日に定時退校するための課題を明らかにする。 | (1) 生徒対応や部活実施日の割振り変更等以外では、他人から促されなくとも、無理なく定時退校できる。<br>(2) 働き方が見直され、業務改善が具体的に進む中で、他の曜日に業務を寄せるのではない、実質的な定時退校が行われている。 | 衛生委員会<br>校務運営会議 |
| 課題を発見し、対応する研修を実施する。  | (1) 課題発見のための教職員アンケートを、前後期の開始時に1回ずつ実施する。課題分析は衛生委員会で行い、校務運営会議に提起する。<br>(2) 課題に対応する研修を、衛生委員会が中心となって年2回実施する。                       | (1) 「働き方改革」の目的や意義について、全職員が本質的に理解して、努力している。<br>(2) 課題発見と解決のための具体策がPDCAサイクルに乗って実施されている。                              |                 |